

日 本 鉄 路 協 会

此の議決を以

安を蔑視するものとあし大に其非を論じたれど更に顧みて其論旨の所在を推測すれば議會の本意は單に今の會社又株主等を賣むる者に非事實は其賣渡の始末に不審を抱きて之を咎むるの餘り所謂坊主を惡みて袈裟に及びたるものも如し果して然らば其議決の不當あるは勿論あれども其意の所在に至りては我輩も議會と國を同ふして政府の處置に不審を抱くものあり聞く所に據れば會社創立の際に政府より買受たるものは幌内炭礦子萬四千三百六十八圓、同鐵道二十四萬七千九百五十圓にて合計三十五萬二千三百十八圓の代價ありと云ふ然るに賣渡の前、政府にて消費したる炭山の起業費は三十八萬三千六百圓餘鐵道起業費は百九十一萬七千八百圓餘ありと云へば合計の大數二百三十萬圓の品を三十五萬圓にて賣渡したるふとにして尋常一樣商賣世界の取引とは思はれず或ひは云々會社にて買受けたる後は鐵道の修繕費其他に七十萬圓を以て又炭山の方も採掘の用意に二十萬圓を要する見込にて前年度の損益計算書に基き前記の代價を見積りて賣渡したるものゝ由なれども昨日の紙上にも述べたる如く買方にて之を引受けたる後は一年間の營業に三割九分の純益ありと云へば其前年度の損益計算書と見積りて賣渡したるものゝ由なれども昨日の紙上にも述べたる如く買方にて之を引受けたる後は一年間の營業に三割九分の純益ありと云へば其前年度の損益計算書と見積りて賣渡したるものゝ由は全く政府の事に關するものにして會社の知る所に非ず凡そ物の賣買に賣るものは成る可く高きを望むとされども賣ふものは少しにても安きと願ふは世間商賣の常にして毫も怪しむ可らず喻へば幾百圓幾千圓の價ある正宗の銘刀・金の茶釜を二三圓にて買受けたるものありとせんに賣手の所存は知る可らずと雖も買手は寧ろ買ふに巧あるの名譽を得べき者にして代價の不相當を以て之を咎む可らざるが如し然るに今政府が會社の發起人等に賣渡したる代價の當不當は不問に附し之と以て會社と罪し併せて今的新株主までを苦しむるとは其目的を誤りたる者と云はざるを得ず左れば議會の本意にして果して賣渡の始末に不審を抱き政府の處置を責むるものあらんには政府に破約の事を勧めて過失を重ねしむるふどもせず又何事をも知らぬ會社の株主と苦しめて社會の商安を妨害するの愚をも爲はず直に進んで其目的ある事の當局者に就き其始末を詰問するみど正當の手段ある可し而して其賣渡の始末に果して不審の廉もあらんか之を彈劾するは法の許さる所あるんあれども精審嚴重に詰問して當局者の辯解に窮するまでに至り其窮したる次第を公然表白して世上に明にするに於ては政府にても徳義上何か之に應ずるの處分あらざを得ず假令へ直に此一事に就て快活に處分するの實意勇氣あしとするも其心筋に既往の非を悟りて過を再びするふとはあかる可し即ち隱然たる國會の實力にして其の能事既に大ありと云はざるを得ず願ふに目下我國の大利害は商況不景氣の妙法にして全國上下の篤しく苦しむ所あれども議會の議論は曾て一言の之に及びたるものあるを聞かず若しも英國などにて斯る不景氣のゆゑに

に然るに我國の議會は政治論の喧しきに似ず商賈の事には毫も注意せざるのみならず其政治論も多くは極端より極端に傾き定論の見る可きものあくして其決議の往々案外のものあるは現に豫算案の施行を見ても一班を知るに足る可し而して時として會社保護の事などを議すれば原因事情は究めずして其行掛りの罪を一切現在の會社株主に歸し政府の約束を破らしめ財産の安全を害するを顧みざるは其本心全く商賈社會の利害を外にするものと云はざるを得ず我輩は議會の議決と目するに財權を蔑視し商安を妨害するものとして辯解の辭なかる可しと信するものあり

○岐阜縣美濃國蠶業者の運動 岐阜縣美濃の蠶絲組合
商は目下の一問題ある蠶種検査法の件に付去月二十九
日より三十一日迄三日間同縣會議事堂に於て臨時會を開
きたるに異議なく同法案實施を帝國議會に請求する
ふとに議決したるに付蠶絲組合頭取大野龜三郎氏は同
國一市二十二郡一萬五千百人の請願書を携帶し此程出
京したりと

○願書受理請求の訴訟 岡田平太郎氏（代言人高梨哲
四郎氏外一名）より陸奥宗光氏（代言人岡山兼吉氏）に
係る尾去澤鑛山借地願書受理請求事件は愈々一昨廿一
日東京地方裁判所

十八番十番
品を搜すに
すふと容易
○布陸山稼
山城丸にて
日に延期せ
○角等村の
の三四日は、
月も殆んど
を探る人も
郊の木下川
界なり園太
界なり園太

●特に近衛兵を附せらる。故三條内大臣葬送の節は、特旨と以て儀仗兵として近衛兵を附せらるゝ旨一昨二十日仰出されたりと

○東京マツナ業者の計畫 我國の機械業は日尚ほ淺き
日本東京地方裁判所に於て極審判事務主任と爲り第一回
の對審を開きしが被告代理人は本件を行政事件ありと
妨訴して豫審裁判を請求せしかば来る二十八日より其裁
判を言渡す筈にて其僅閉廷したりと

西へ距るふ
ても何人を
ば右手に車
界の三大字

フレツス新聞が三菱炭坑社汽船芙蓉丸の遭難に付き記述したる大要に曰く汽船芙蓉丸は横濱より歸航の途中下ノ關の東方凡ろ十哩ある元山近傍に於て淺瀬に乘上ぐるの不幸に遭へり其原因は同船長が新設の一燈臺の爲に方角を誤られたるに歸するものにして吾人の知り得る丈けの所にてはみの新燈臺設置の事は未だ告示せられざるなり汽船は幸にして少しも損耗なく暫時猶豫の上再び乗出るゝを得て今宵は此に付けて

にも拘らず昨二十三年度の輸出額は本邦國產中製作品の第二三位を占むる迄に發達したるが此程東京府下の同業者は從來支那人若くは他外國人の掌裏に歸したる商權を回復し専ら本業の隆盛を計らん爲め大坂兵庫名古屋及び靜岡等の同業者と連絡を通じ東洋の販賣を一括して直輸出を計畫するの目的を以て一の輸出會社を創設せん爲め東京部は榎本組の榎本重美、倉知義雄の

は去る四日の夜備後の沖合を過ぎ部崎の燈臺を目指して測量をなしつゝ進航。中午後十一時五分に至り北西西方角に一燈臺を認めしに此方角は部崎燈臺を認めんと待設けし方角あれば汽船は十一時三十分まで全速力を以て進み夫より半速力を減じて進路を北西に轉じて一時四十分には一層速力を減じたりしが此時天・雨を

○上海定期船の臨時代用 横濱上海間を往復する日本郵船會社の郵船は從來神戸丸西京丸横濱丸の三艘なりしに前號にも記せし如く横濱丸は船體修繕の爲め横須賀船渠に入りしを以て同航休航中は暫らく函館横濱間の定期船として神戸迄代船せしめ同港よりは神戸丸西京丸の二艘をして上海に引返さしむる事にありし由に

帶び輕風起れり夜半に及んで北西北の方に進み燈臺を
北西の方角に認め午前零時六分船首の方に當りて岩打
の波音を聞きしかば直に機関を止められ共汽船の進行
全く止まざる内少しく船底に觸るものありたれども
船體を動搖せしむるに至らず是に於て直に測量をあせ
しに汽船は軟き泥土に乗上げしを知るを得たり之と同
時に該燈臺は部崎の燈臺に非ずして元山に於ける新燈
臺なるふとを發見せりふの新燈臺は未だ告知せざるも

て明二十四日も薩摩丸を神戸迄代用し同港より西京九
を再び上海に戻らしむる筈ありと云ふ

のにして乗組員等の夢にだも知らざりし所あり斯くて凡そ半時間を経て他の助を借りず再び乗出づるを得たれば燈臺を北方に見て碇と五尋の海底に下し、マンクを検査したれども船内には浸水なかりしと以て進航を始め其翌夜半潮當港に安着し翌朝潜水人をして船底を檢査せしめたれども損所無かりしゆゑ充分に石炭を積入られ同日午後六時再び横濱に向け出發したり其後内海の先案内者并に内海にて汽船の音を放つて

○製茶の氣配及び在荷の欠乏　横濱に於ける二十三年
度の茶貿易は總じて可なりの好結果を得たり、新茶の
出初めし時に當て不幸にも外國爲替相場の大變動を起
したるより忽ち相場に影響を與へ延ひて一時賣行の難
りたるほどありしも漸次活潑の取引ありて遂に本年二
策を設けたりと云ふ

其筋の告示あると云へり是は遞信省の怠慢あるが如
くして蓋し適當なる告知あくして一燈臺を新設し又は變更
するは今回を以て始めとすに非ず而して此點の怠慢
に依りて常に危險ある出來事を起すあらん吾人は敢て
吉はんとす此事に關して遞信省は重大の責任を負ふべ
しと又日本の海岸には軟き泥土の海底少うきを以て哭

月十一日迄に二千五百五十九萬六千餘斤の賣込額に達するを得久神戸に於ても千五百八十七萬四千五百餘斤の賣込高を見るに至れり即ち是を前年度に比較すれば横濱は二百廿七萬九千五百斤、神戸は百六十二萬四千五百斤の増加にて此の數を以て既往十年間に比するも昨年度の如き多額の賣込ありしは未だ曾て聞かざる處なれば輸出増加の一點に於ては近年無比と云はざるべからず尤も價格は前年よりは平均二三弗安直ありしも

各丸に次で方向を誤まる船あらば同船の如く幸に危難を免るゝ能はざるの恐あり云々

今品拂底あるより大に價格を回復し前年と大差あり
に至りしを以て先づ當季間の茶貿易は隆盛を極めたり
云ふも敢て過言あらざるべし又現今に至ては在荷非
常に減少し十七萬斤の少數となりしも四十八番、百七